

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：成人病予防費

事業名 A Y A世代のがんの長期療養支援ネットワーク事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部保健医療課康推進室がん・受動喫煙対策係 電話番号：058-272-1111 (内2559)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,059 千円 (前年度予算額：1,059 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,059	529	0	0	0	0	0	0	530
要求額	1,059	529	0	0	0	0	0	0	530
決定額	1,059	529	0	0	0	0	0	0	530

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

平成29～31年度に実施した「小児・A Y A世代のがん等成育医療支援体制強化事業」の取組みを通して、A Y A世代のがん患者は長期療養に伴う将来の生活に関する不安が強いこと、反面そのサポート体制が希薄であることが明らかとなった。

そこで、A Y A世代のがん患者支援に焦点を絞り、地域において患者の心理社会的支援に関わる機関を増やし、円滑な連携を行うための長期療養支援ネットワークを構築し、サポート体制を強化することで患者の不安解消を図る。

(2) 事業内容

ア 長期療養支援ネットワークの構築、推進

① 関係者向け研修会の開催

A Y A世代のがん患者に関わる関係者(医療従事者・教育関係者・雇用主等)を対象に研修会を開催し、A Y A世代のがん患者の現状についての理解を深める。

② ネットワーク会議の開催

医療従事者や関係機関従事者が集まり、各支援機関の役割等について情報交換を行い、連携推進を図る。

イ 患者交流会の開催

同じ世代の患者が集まり、患者の抱える悩みや課題を共有し、課題解決に向けた方策を考えるための学習会等を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

第3次岐阜県がん対策推進計画においてA Y A世代のニーズに対応できる体制の整備を図ることが明記されており、県内の患者支援体制の整備を図ることは県として実施すべき事業であり妥当である。

- ・都道府県健康対策推進事業費（2）活用；国1/2 県1/2負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	14	業務旅費
需用費	24	消耗品費
役員費	24	通信運搬費
委託料	997	業務委託先：岐阜市民病院
合計	1,059	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3次岐阜県がん対策推進計画

(2) 国・他県の状況

第3期がん対策推進基本計画において、小児及びA Y A世代のがんについて、成人の希少がんとは異なる対策が必要としており、患者・家族の希望やニーズに対応した支援体制の整備を求めている。

(3) 後年度の財政負担

当県には小児がん拠点病院の指定を受けた医療機関がないため、県内での患者支援ネットワークの整備・充実には県として継続して行っていく必要がある。本事業は3年間実施する中でネットワークの充実を図り、R5年度に事業見直しを行う。

(4) 事業主体及びその妥当性

委託先は小児がん連携病院である岐阜市民病院。特に小児・A Y A世代の患者の長期フォローアップ等に関わる専門機関として、患者支援体制の中心的な役割を持ち、妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

A Y A世代のがんは個別の状況による多様なニーズが存在するが、患者数が少ないことから個々の患者が孤立しがちである。患者支援の輪が広がり、患者がタイムリーに相談できる機関が増えること、長期にわたる療養生活における患者の不安軽減を図れるよう支援体制の整備を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
						達成率
A Y A世代の患者 支援機関数（研修 会出席機関）		6団体	—	—	増加	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>関係者向け研修会 R3年3月開催 事例検討会の開催 R3年2月開催 患者交流会の開催 R3年2月開催</p> <p>関係者が集まる研修会や事例検討会を通じて、数少ないA Y A世代のがん患者に関する理解が深まると同時に連携を取りやすい関係を築き、患者のニーズに沿った支援が行えるようになる。</p>
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>小児やAYA世代のがんは、成人に比べて患者数も少なく希少性が高いため、個々のニーズが把握されづらく、孤立しがちである。特にAYA世代は、学業、就職、恋愛、結婚、出産等の人生を左右する時期でもあることから、悩みも深いことから、幅広い関係機関の支援者の理解と、患者支援ネットワークの体制整備が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>「第3次がん対策基本計画」において、小児・AYA世代のがん患者の多様なニーズを把握し、相談支援体制の整備を行うとしており、県としても取り組むべき分野である。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>小児やAYA世代のがんについては、患者の集約化と、専門医等による高度で専門的な医療及び相談支援の提供が必要である。小児がん拠点病院と連携する県内の小児がん連携病院は、治療と共に患者への幅広い相談支援を行っていく立場にあるため、効率よく事業が実施できる。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 小児～成人期への移行期医療やがん診療連携拠点病院を含めた長期フォローアップ診療体制との連携や共有</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 継続して実施し、AYA世代の患者ニーズに応える長期療養支援ネットワークを充実させていく必要がある。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	